

平成19年度市町村民所得推計の概要

1. 市町村内総生産

(県内の状況)

平成19年度の市町村内総生産の総額(市町村計)は5兆7576億円で、前年度に比べ1.1%の増加となった。

市町村別では、総生産額が増加したのは24市町村で、減少したのは24市町村であった。

産業別では、建設業が減少したものの、構成比の高い製造業が増加した。

増加率の大きい市町村は、大津町(+18.6%)、城南町(+16.4%)、菊陽町(+6.5%)などであった。

一方、減少率の大きい市町村は、球磨村(▲19.4%)、五木村(▲10.6%)、小国町(▲10.4%)などであった。

(天草市の状況)

平成19年度の市町村内総生産の総額は、2,377億7,680万円で、前年度に比べ2.1%の増加となった。

これは、公共土木工事の減少により建設業生産額が前年度と比較し9.6%減少したものの、水産業が70.4%の増加となったことなどが主な要因である。

また、県内市町村総額に占める本市の総生産額は、4.1%となり、前年度に比べ0.1%の増加となった。

2. 市町村民所得

(県内の状況)

平成19年度の市町村民所得の総額(市町村計)は4兆3514億円で、前年度に比べ1.9%の増加となった。

項目別にみると、雇用者報酬が▲0.0%の微減、財産所得が▲5.0%の減少、企業所得が8.8%の増加となった。

また、市町村民所得を市町村総人口で割った一人当たり市町村民所得は、大津町が5,005千円と最も大きく、次いで合志市3,269千円、熊本市2,778千円の順であった。

(天草市の状況)

本市の平成19年度市町村民所得の総額は、1,644億5,651万円で、前年度に比べ1.5%の増加となった。

項目別にみると、雇用者報酬が1.0%の減少、財産所得が8.1%の増加、企業所得が7.4%の増加となった。

また、一人当たり市町村民所得は、176 万4千円となり昨年度より5万9千円、3.4%のプラスとなった。県内市町村平均額238 万円と比べ、61 万6 千円低い額となっている。

一人当たり市町村民所得額を県内順位別で見れば、本市は、48 市町村中32 位、14 市中では13 位となっている。

※ 一人当たり市町村民所得は、市町村民所得を市町村の総人口で除したもので、市町村経済の水準を表す指標です。

この市町村民所得には、家計（個人）が受け取る所得だけでなく、民間法人企業等の所得も含まれ、また、総人口には、生産に従事していない失業者、高齢者、子供も含まれません。

よって、一人当たり市町村民所得は、個人一人当たりの年収額に相当するものではありません。

・市町村民所得＝「雇用者報酬」＋「財産所得」＋「企業所得」

・市町村の総人口：国勢調査年は国勢調査値、その他の年度は国勢調査値から推計した。